「となりのトトロ」から思うこと

スタジオジブリのアニメ映画「となりのトトロ」ですが、草壁一家のサツキとメイがトトロと出会う場面にはある共通点があります。

まずサツキがトトロと出会ったのは、お父さんをバス停まで迎えに行ったときでした。妹のメイと一緒にバス停で待っていましたが、なかなかお父さんは帰ってきません。そのうち、日が落ちて辺りは暗くなり、眠ってしまったメイをサツキはおんぶしてあげます。暗闇のなかで雨は降り続き、妹をおぶって傘を差しながら父親の乗るバスを待っているサツキ。ここでトトロが登場するのです。

メイとトトロとの出会いは、ちょっと経緯があります。物語は草壁家の引越しの場面から始まりますが、お母さんは病気のため入院しています。引越しを終えて落ち着いたところで姉妹は、お母さんが入院している病院へお見舞いに行きます。その次の日、メイが一人遊びをしている中で、落ちているどんぐりを追う先でトトロと出会うのです。

ここでメイの心情を考えてみましょう。しばらくお母さんがいない生活を送っていたメイに寂しさはあったでしょうが、日々の生活の中で寂しさにも慣れていたと思われます。そんな中、お見舞いへ行ってお母さんと会えて嬉しかったでしょうけど、これは同時に慣れて遠ざかっていた寂しさが湧き出てくる体験でもあったでしょう。次の日の「一人で遊んでいる状況」というのは、そうは見えなくても、湧き出てきた寂しさを抱えながらの時間だったと推察できます。こんな状況でメイはトトロと出会っているのです。

このように、草壁姉妹とトトロとの出会いを振り返ってみると、サツキもメイも寂しさや不安が募るような状況でトトロと出会っていることがわかります。トトロは「つらいときに支えてくれる存在」の象徴としてサツキとメイの前に現れているのです。「となりのトトロ」が飽きられることなく何度も放送されているのは、子どもや親のこころに訴えかけるものがあるからなのかもしれませんね。